



令和4年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業

令和4年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業（主催＝日本武道館、日本相撲連盟、日本武道協会、後援＝スポーツ庁）が1月21・22日の2日間、日本武道館大会議室（東京都千代田区）で実施された。本事業では、昨年11月に開催された第9回全国相撲指導者研修会の振り返りと、次回に向けた研修内容の検討と準備作業を行った。

■1日目（1月21日）

開講式では、安井和男公益財団法人日本相撲連盟専務理事と和田健公益財団法人日本武道館振興部振興課長が主催者挨拶を、続いて桑森真介公益財団法人日本相撲連盟中学校相撲授業指導研究委員会座長が研究者代表挨拶をそれぞれ述べた。

開講式後は昨年11月18日～20日に開催した第9回全国相撲指導者研修会の内容について振り返りを行った。各コマにおける成果と課題は以下の通り。

《指導法概論》

今回初めて資料として科学的根拠を示したが参加者には好評だった。次年度も科学的な側面から相撲の魅力を紹介していく。

《実技研修》

音楽をかけてフィットネスに相撲の動きを取り入れ、基本動作を体験してもらった。楽しんでもらったので継続実施する予定。相撲遊びまでやる予定だったが時間が不足した。今後は授業に落とし込めるようなパッケージを提案したい。

《実践事例発表》

外部指導者と教育委員会の担当者にそれぞれの立場で発表してもらったことで、現場の様子を直接的に伝えることができた。毎年発表者の人選を工夫していく。

《指導計画》

前回からの変更点は4つのテーマを設けて実施した。これにより各班が自主的に取り組み、指導案に工夫が見られた。「押し」から指導することに固定概念があったが「寄り」から指導することも可能であると新たな発見につながった。

《安全管理・指導》

安全管理は具体的な事例をあげて印象に残るよ

うに工夫していく必要がある。引き続き情報収集をし、資料をアップグレードして委員会の財産となるよう準備を進める。

《模擬授業》

参加者を6班から4班編成にしたことで、模擬授業の協力中学生全員が4コマ全ての授業を体験できた。これにより授業としてのつながりが生まれ、スムーズに展開できた。6コマを連続して実施するのは中学生への負担が大きいため要検討。

参加者全員に模擬授業に集中して観てもらうため、責任観察班を事前に決めない。授業実施者や発表者を把握しておき今後記録する。

《審判法》

実技を中心に相撲遊びを取り入れた。初心者を除く受講生は競技者でもある。ルールは簡明であるがどこまで理解しているのかを確認したかった。コロナ禍での授業実施では用具を使用することも可とするが素材選びには注意が必要。



全体を通して言えることだが、抑えるべきポイントは抑えておき、内容に変更はなくとも担当を変えることで変化が出て、リピーターにも新鮮に伝えることができるのではないかと。

■2日目（1月22日）

次回に向けた準備作業では、外部指導者への参加の呼びかけ、研修会の趣旨説明のオリエンテーションの開催、実践事例発表者の候補の人選、実技研修の内容について検討がなされた。

閉講式では浦嶋三郎公益財団法人日本相撲連盟参事が講評を、続いて和田振興課長が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。